

令和2年度 社会福祉推進事業

介護現場における介護過程実践の実態調査
及び効果検証に関する調査研究事業

株式会社コモン計画研究所

令和3(2021)年3月

目 次

■第1章 調査研究の枠組み及び結果の総括	1
1 目的	3
2 調査研究の枠組みと調査研究方法	4
(1) 介護現場における介護過程実践の実態調査の実施	4
(2) 介護現場における介護過程の実践事例調査の実施	4
(3) 介護過程実践の推進・定着に向けた効果検証の実施	5
(4) 検討体制：検討委員会の設置	5
(5) 検討体制：作業部会の設置	6
3 調査研究の経過	7
4 調査研究の総括	11
(1) 介護現場における介護過程実践に関する実態について	11
(2) 介護現場における介護過程実践に関する課題について	13
(3) 調査研究の総括	15
■第2章 介護現場における介護過程実践に関する調査（量的調査）	19
1 調査の枠組み	21
(1) 目的	21
(2) 調査対象とサンプル数	21
(3) 調査内容	21
(4) 調査方法と調査期間	22
(5) 実査及び集計における配慮・留意点等	22
(6) 回収数	23
2 回答施設の基本属性	24
(1) 調査の回答者	24
(2) 回答施設の基本属性	25
①回答施設の法人種別	25
②回答施設の所在都道府県	25
③回答施設の事業開始年	26
④回答施設の入所定員	26
⑤回答施設の介護職員数（平均値）	26
⑥介護職以外の専門職が立案している個別計画	27

3	個別介護計画の作成状況	28
	(1) 個別介護計画作成の有無	28
	(2) 個別介護計画を作成していない理由	30
	(3) 個別介護計画の作成対象者	31
	(4) 個別介護計画の作成理由・目的	31
	(5) 個別介護計画の作成状況	32
	①アセスメント・計画作成・評価者の職位	32
	②アセスメント・計画作成・評価者の資格状況	33
	③アセスメント・計画作成・評価者の雇用状況	34
	④アセスメント・計画作成・評価者の経験年数	35
	⑤内容の点検や助言をしている人	36
4	個別介護計画／個別支援計画による効果や変化	37
5	施設サービス計画／サービス等利用計画に対する介護職の関わり	40
	(1) 施設サービス計画／サービス等利用計画のアセスメント	40
	(2) 施設サービス計画／サービス等利用計画の立案	41
	(3) 施設サービス計画／サービス等利用計画に基づく介護実践	42
	(4) 施設サービス計画／サービス等利用計画の評価	43
6	施設サービス計画／サービス等利用計画に関わることでの効果や変化	44
7	介護職が用いているツールや書式	47
	(1) アセスメントの書式等の特徴・利用方法・使用効果	47
	(2) 計画立案の書式等の特徴・利用方法・使用効果	49
	(3) 実施をする際に使用している書式等の特徴・利用方法・使用効果	50
	(4) 評価をする際に使用している書式等の特徴・利用方法・使用効果	51
8	個別介護計画／個別支援計画に対する理解	52
9	介護過程の実践における改善点や課題__自由記載のまとめ	55
	(1) アセスメント、計画立案、実施、評価における改善点や課題	55
	(2) 書式やツールに関する改善点や課題	57
	(3) 人材育成に関する改善点や課題	59
	(4) 組織に関する改善点や課題	62
	(5) 介護過程の実践を推進していくための改善点や課題など	64
10	実態調査（量的調査）のまとめと考察	68
	(1) 回答者及び回答施設の基本的事項	68
	(2) 個別介護計画の有無	69
	(3) アセスメント・計画作成・評価の実施者（個別介護計画作成の場合）	70

(4) 個別介護計画・個別支援計画の効果等（個別介護計画作成の場合）	71
(5) 施設サービス計画／サービス等利用計画への介護職の関わり.....	73
(6) 介護職が施設サービス計画／サービス等利用計画に関わることの効果等	74
(7) 施設における個別介護計画・個別支援計画への理解.....	75
(8) 自由記載からあがる介護過程に関する課題のキーワード.....	77
■第3章 介護現場における介護過程の実践事例調査（質的調査）	79
1 実践事例調査の枠組み	81
(1) 目的	81
(2) 調査対象と調査実施日	81
(3) 調査内容	82
(4) 調査方法	83
2 調査結果.....	84
事例1 特別養護老人ホーム あけぼの.....	84
事例2 介護老人保健施設 あいの郷.....	88
事例3 ひまわり自立支援センター（障害者支援施設）	92
事例4 介護老人保健施設 デンマークイン新宿.....	96
事例5 障害者支援施設 リアン文京.....	100
事例6 特別養護老人ホーム なのはな苑ふくおか	104
事例7 高齢者複合福祉施設 えるむ・晴風・にれの木園（介護老人福祉施設）	108
事例8 地域密着型介護老人福祉施設 きたおおじ	112
事例9 高齢者総合福祉施設 けま喜楽苑（介護老人福祉施設）	116
事例10 障害者支援施設 修光園	120
3 実践事例調査（質的調査）のまとめと考察.....	124
(1) 介護過程導入の背景	124
(2) 各施設の取り組みのポイントと成果・課題	125
(3) 介護過程実践における課題.....	132
(4) 介護過程における介護職（介護福祉士）の役割	134
(5) 課題と展望	137
■第4章 介護過程の推進・定着に向けた効果検証の実施	139
1 効果検証の枠組み	141
(1) 目的と方法	141

(2) A 実践事例調査対象施設に対する効果検証の実施	142
(3) B 新規協力施設における効果検証の実施	143
(4) B 新規協力施設における効果検証の取り組みの記録	146
2 A 実践事例調査対象施設に対する効果検証結果	152
(1) A 介護過程に対する考え・意識への変化（ヒアリング結果）	152
(2) A 自施設の課題についての再認識・発見（ヒアリング結果）	154
(3) A 参考となった書式や取り組みの工夫など（ヒアリング結果）	156
(4) A 発表後に自施設で変更・見直したところ（ヒアリング結果）	157
(5) A その他（ヒアリング結果）	159
3 B 新規協力施設における効果検証効果	161
(1) B 利用者に対する変化・影響	161
(2) B チームケアにおける変化・影響	171
(3) B その他（個別記載／ヒアリング結果）	178
4 効果検証のまとめと考察	186
(1) A 実践事例調査対象施設に対する効果検証	186
(2) B 新規協力施設における効果検証効果	190
■資料	195
1 調査研究ご協力者	197
2 介護現場における介護過程実践に関する調査（量的調査）調査票	199

■第1章 調査研究の枠組み 及び結果の総括

1 目的

介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に伴い、介護職員には、適切に利用者等のニーズ・課題を捉えた上で介護計画作成等に基づく支援を展開していく介護過程の実践力が求められている。また、事業者における管理者の認識では、介護過程の展開におけるアセスメントや介護計画の作成・見直し、他の専門職種や外部の機関・事業所からの情報収集、より良いケア方法の提案といった業務には、介護福祉士の資格を有する者等が積極的に関わるなど、少なくとも介護福祉士が備える専門性をもって業務に従事することが求められるとの認識が高くなっている（第20回社会保障審議会福祉部会「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現にむけて」）。

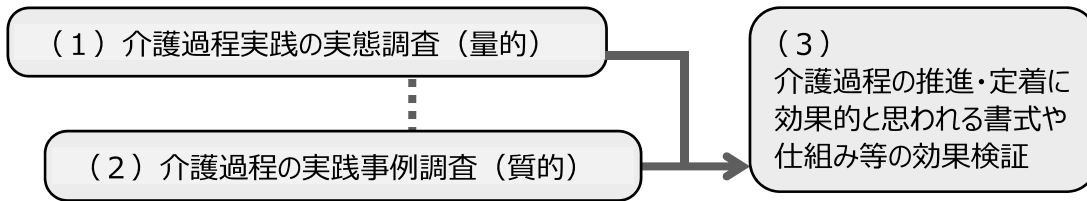
しかしながら、介護過程の展開については、一律の手法や役割が規定されておらず、介護過程の実践やその取り組みの効果、実践における介護福祉士の具体的な役割（活動）の実態は十分に把握されていない。

本調査研究では、介護現場における介護過程の実践状況に関するアンケート調査及び実践事例の調査等を実施し、好事例や課題等の分析を行うことにより、介護現場における介護過程の実践に関する実態及び課題の明確化に取り組む。具体的には、どれ位の介護現場で実践されているのか、どのような手法で実践されているのか、介護福祉士等介護職員のキャリアに応じた役割、チームケアと介護過程実践との関係等を明らかにする。また、調査により抽出された介護過程の展開を推進する書式や取り組みについては、介護職員の役割に絡めつつ効果検証等を行う。これらの取り組みの成果として、介護過程の実践を推進する事例集（教材）を作成し、現任者の研修や養成教育における教材の一部として活用を図る。

本調査研究における取り組みは、介護現場における介護過程実践の推進・定着を後押しをすることにつながり、介護実践の質の向上に寄与するものとする。

2 調査研究の枠組みと調査研究方法

本調査研究の取り組みは、以下（１）（２）（３）より構成される。



(1) 介護現場における介護過程実践の実態調査の実施

介護過程の実践の有無、具体的実践状況、実践における課題について把握することを目的に、量的調査として「介護現場における介護過程実践の実態調査」を実施した。本調査の詳細は、21ページ～に掲載している。

- 対象：介護老人福祉施設 2,500、介護老人保健施設 2,500、障害者支援施設 518
- サンプル：合計 5,518 施設
- 方法：郵送により対象施設に送付。
回収は郵送回収、ウェブフォーム回答、エクセルダウンロードによる回答とし、回答方法は回答者による選択に委ねた。
- 調査期間：令和 2 年 12 月 2 日～12 月 30 日
- 回収：1,353 施設、回収率 24.5%

(2) 介護現場における介護過程の実践事例調査の実施

介護現場における介護過程の実践事例を抽出し、具体的な実践手法の把握・分析を目的に、質的調査として「介護現場における介護過程の実践事例の調査」を実施した。本調査の詳細は、81ページ～に掲載している。

- 対象：介護老人福祉施設 5 施設、介護老人保健施設 2 施設、障害者支援施設 3 施設
- サンプル：合計 10 施設
- 方法：各施設が介護過程の実践状況について、作業部会においてプレゼンテーションをする方法で実施した。作業部会では、予め事例把握のための質問シートを作成し、プレゼンテーションの後、作業部会委員による質疑応答を実施した。10 施設は他施設のプレゼンテーションも聞き、質疑応答にも参加した。
- 調査期間：令和 2 年 10 月～12 月

(3) 介護過程実践の推進・定着に向けた効果検証の実施

各施設で介護過程実践において取り入れている書式や仕組み等が、介護過程の推進・定着に効果があるかを測る効果検証を実施した。以下のA Bの2つによりアプローチをしている。効果検証の詳細は、141 ページ～に掲載している。

■対 象	A / 介護現場における介護過程の実践事例対象施設 7 施設 B / 効果検証の新規協力施設 5 施設
■視 点	A / 既に介護過程を実践している施設において、介護過程実践を深化させていくための効果検証 B / 介護過程実践に課題を感じている施設（導入が難しい、定着しない等）に対し、介護過程の導入や実践を後押しする（実践を拡充していく）ための効果検証
■方 法	A / 自施設の実践事例を整理・報告すること及び他施設の実践を知ることによる変化や気づき、自施設における新たな取り組み等についてヒアリングを実施 B / 実践事例であげられた書式や仕組みを各施設で実践し、実践後にヒアリングを実施
■調査期間	令和3年1月～3月

(4) 検討体制：検討委員会の設置

検討委員会を設置し、調査に関する方法及び内容の検討・精査・修正等に関する助言、調査結果を踏まえた今後の提言の検討を行った。

以下の学識経験者、職能団体、事業者団体から推薦された者で構成した。

役職	所属等	氏名（敬称略）
委員長	公益社団法人日本介護福祉士会 会長	及川ゆりこ
委員	全国福祉高等学校長会 事務局次長	真田 龍一
委員	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 理事	本名 靖
委員	全国身体障害者施設協議会 副会長	眞下 宗司
委員	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 老施協総研運営委員会 副委員長	森山 善弘
委員	公益社団法人全国老人保健施設協会 管理運営委員会 副委員長	山野 雅弘

オブザーバー

所属等	氏名（敬称略）
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官	伊藤 優子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官	鈴木 俊文

（５）検討体制：作業部会の設置

作業部会を設置し、本調査研究において実施される各種調査の方法及び内容の検討、調査実施支援、調査結果の分析、結果を踏まえたまとめ・今後の提言案等の作成を行った。

以下の有識者、職能団体、介護施設等関係者で構成した。

役職	所属等	氏名（敬称略）
委員	ケアソーシャルワーク研究所 所長	金山 峰之
委員	社会福祉法人美咲会 常務理事	熊木佐知男
委員	学校法人東京YMCA学院 東京YMCA医療福祉専門学校介護福祉科専任教員	品川 智則
委員	医療法人社団永生会 介護統括管理部 課長	鈴木 乃
委員	旭川大学短期大学部 生活学科 生活福祉専攻 准教授	平野 啓介
部会長	公益社団法人日本介護福祉士会 常任理事	藤野 裕子
委員	社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 総合施設長	山内 哲也

オブザーバー

所属等	氏名
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官	伊藤 優子
厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護人材確保・広報戦略対策官	鈴木 俊文

3 調査研究の経過

開催			主な議事内容
第1回	◆作業部会	日時：令和2年9月27日（日） 10時～12時 会場：コンフォート新宿及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査研究事業の概要について ・アンケート調査の内容・方法について ・実践事例調査の内容・方法等について ・本調査研究事業のスケジュールについて
第2回	◆作業部会	日時：令和2年10月11日（日） 13時～16時 会場：コンフォート新宿及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例報告発表及び質疑応答3施設
第3回	◆作業部会	日時：令和2年10月16日（金） 16時～19時 会場：コンフォート新宿及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例報告発表及び質疑応答3施設
第1回	●検討委員会	日時：令和2年10月26日（月） 13時～15時 会場：コンフォート水道橋及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査研究事業の概要について ・アンケート調査について ・実践事例調査について ・本調査研究事業のスケジュールについて
第4回	◆作業部会	日時：令和2年10月29日（木） 16時～19時 会場：コンフォート新宿及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例報告発表及び質疑応答3施設
第5回	◆作業部会	日時：令和2年12月1日（火） 15時30分～18時30分 会場：コンフォート水道橋及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例報告発表及び質疑応答1施設 ・アンケート調査の内容について ・実践事例報告まとめ案について ・効果検証実施について
<p>※介護現場における介護過程実践に関する調査（量的調査）の実施 令和2年12月2日（水）～30日（水）</p>			
第2回	●検討委員会	日時：令和2年12月8日（火） 13時～15時 会場：コンフォート水道橋及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の報告 ・実践事例調査報告 ・効果検証実施について
第6回	◆作業部会	日時：令和2年12月21日（月） 16時～18時 会場：コンフォート水道橋及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・効果検証実施について
第7回	◆作業部会	日時：令和3年1月12日（火） 18時～20時 会場：コンフォート水道橋及びZoom	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例報告まとめについて ・報告書と事例集の構成案について

開 催		主な議事内容	
第 8 回	◆作業部会	日時：令和 3 年 1 月 27 日（水） 16 時～18 時 会場：コンフォート水道橋及び Zoom	・アンケート調査結果について
①	効果検証 担当会議	日時：令和 3 年 2 月 3 日（水） 17 時～18 時 会場：Zoom	・効果検証全体の流れについて
①	アンケート 調査担当会議	日時：令和 3 年 2 月 4 日（木） 18 時～19 時 会場：Zoom	・自由記載のまとめ方について
①	実践事例調査 担当会議	日時：令和 3 年 2 月 5 日（金） 9 時～10 時 会場：Zoom	・実践事例調査のまとめと考察について
②	アンケート 調査担当会議	日時：令和 3 年 2 月 15 日（月） 18 時～19 時 会場：Zoom	・自由記載のまとめ方について
②	効果検証 担当会議	日時：令和 3 年 2 月 16 日（火） 16 時～17 時 会場：Zoom	・効果検証ヒアリング項目について
②	実践事例調査 担当会議	日時：令和 3 年 2 月 20 日（土） 16 時～17 時 会場：Zoom	・マトリクスによる分析について
※効果検証ヒアリング A の実施 令和 3 年 2 月 21 日（日）11 時～12 時（Zoom） 社会福祉法人武蔵野会 障害者支援施設 リアン文京			
※効果検証ヒアリング A の実施 令和 3 年 2 月 22 日（月）14 時～15 時（Zoom） 社会福祉法人本庄ひまわり福祉会 ひまわり自立支援センター			
第 9 回	◆作業部会	日時：令和 3 年 2 月 22 日（月） 18 時～20 時 会場：コンフォート水道橋及び Zoom	・担当別進捗報告 ・アンケート調査及び実践事例から見える介護福祉士の役割について
③	アンケート 調査担当会議	日時：令和 3 年 2 月 23 日（火） 18 時～19 時 会場：Zoom	・問 14 書式等のマトリクスによる分類について
※効果検証ヒアリング A の実施 令和 3 年 2 月 24 日（水）12 時～13 時（Zoom） 社会福祉法人明翠会 特別養護老人ホーム なのはな苑ふくおか			
※効果検証ヒアリング A の実施 令和 3 年 2 月 25 日（木）14 時～15 時（Zoom） 社会福祉法人直心会 障害者支援施設 修光園			

開 催		主な議事内容	
※効果検証ヒアリングAの実施 令和3年2月25日(木)17時～18時(Zoom) 社会福祉法人リガーレ暮らしの架け橋 地域密着型介護老人福祉施設 きたおおじ			
※効果検証ヒアリングAの実施 令和3年2月26日(金)17時～18時(Zoom) 社会福祉法人彩光会 特別養護老人ホーム あけぼの			
※効果検証ヒアリングAの実施 令和3年2月27日(土)17時～18時(Zoom) 埼玉医療生活協同組合 介護老人保健施設 あいの郷			
※効果検証ヒアリングBの実施(第1回会議2月16日(火)、第2回会議2月19日(金)) 令和3年3月1日(月)17時～18時(Zoom) 医療法人くさの実会 介護老人保健施設 リバーサイド春圃			
④	アンケート 調査担当会議	日時:令和3年3月2日(火) 18時～19時 会場:Zoom	・各課題の自由記載について
③	効果検証 担当会議	日時:令和3年3月5日(金) 17時～18時 会場:Zoom	・実践事例発表施設の効果検証ヒアリングのまとめかたについて
※効果検証ヒアリングBの実施(第1回会議2月12日(金)、第2回会議2月18日(木)) 令和3年3月3日(水)10時30分～11時30分(Zoom) 社会福祉法人倭林会 指定介護老人福祉施設 成蹊園			
第10回	◆作業部会	日時:令和3年3月10日(水) 16時～18時 会場:コンフォート水道橋及びZoom	・事例集(案)について
③	実践事例調査 担当会議	日時:令和3年3月10日(水) 18時～19時 会場:Zoom	・実践事例調査まとめと考察について
※効果検証ヒアリングBの実施(第1回会議2月15日(月)、第2回会議2月17日(水)) 令和3年3月13日(土)13時30分～14時30分(Zoom) 社会福祉法人河内厚生会 介護老人保健施設 もえぎ野			
※効果検証ヒアリングBの実施(第1回会議2月19日(金)、第2回会議3月3日(水)) 令和3年3月16日(火)14時30分～15時30分(Zoom) 社会福祉法人内潟療護園 障がい者支援施設 第二うちがた			
※効果検証ヒアリングBの実施(第1回会議2月10日(水)、第2回会議2月18日(木)) 令和3年3月17日(水)17時～18時(Zoom) 社会福祉法人岡山中央福祉会 特別養護老人ホーム 中野けんせいえん			
第3回	●検討委員会	日時:令和3年3月18日(木) 16時～18時 会場:コンフォート水道橋及びZoom	・報告書(案)及び事例集(案)について

開 催			主な議事内容
④	効果検証 担当会議	日時：令和3年3月20日（土） 12時30分～14時 会場：Zoom	・まとめと考察について
④	実践事例調査 担当会議	日時：令和3年3月21日（日） 19時～20時 会場：Zoom	・まとめと考察について
⑤	実践事例調査 担当会議	日時：令和3年3月28日（日） 19時～20時 会場：Zoom	・事例集について
⑤	効果検証 担当会議	日時：令和3年3月29日（月） 14時～15時 会場：Zoom	・まとめと考察について

4 調査研究の総括

本調査研究では、介護現場における介護過程の実践に関する実態や課題とともに、介護過程の実践における介護福祉士の役割を明らかにすることを主たる目的として、以下に記載する①介護過程実践の実態調査（量的調査）、②介護過程の実践事例調査（質的調査）、③効果検証を行った。

結果の詳細は、それぞれの章末を参考にさせていただきたい。ここでは全体を総括する。

なお、本調査研究では、介護老人福祉施設及び介護老人保健施設において、介護過程のPDCAサイクルの中で介護職が介護内容や方法を定める計画を「個別介護計画」と表記している。施設により、個別援助計画、介護計画などと呼ばれている場合があることに留意されたい。

(1) 介護現場における介護過程実践に関する実態について

①介護過程実践の実態調査（量的調査）

アンケート調査結果から見えてきた、介護現場における介護過程に関する実態は以下の通りである。

- ・個別介護計画の作成は、介護老人福祉施設 31.6%、介護老人保健施設 33.1%である。
- ・定員数が多い施設よりも、50人以下の少ない施設の方が個別介護計画書を作成している傾向にある。
- ・個別介護計画を作成していない施設の理由の1位は「施設サービス計画で対応できている」であり、「業務量が増えること」や「計画作成できる介護人材の不足」「負担感がある」が続いている。
- ・個別介護計画を作成している施設の理由の1位は「施設サービス計画を具現化するため」であり、「ヒヤリハットや事故の防止」「利用者や家族からの意見・要望」「介護職員や他の専門職からの意見・要望」など、リスクマネジメントや現場からの意見と言ったものが続いている。
- ・個別介護計画や個別支援計画による効果等については、「利用者の自立の維持・向上」「利用者の望む生活の実現」といった対利用者への意義、「介護職員の専門職としての意義の向上」「他職種との連携」「施設サービス計画の充実」など専門職としての実践の意義、その他介護職チームケアの推進など、多様な効果が一定程度あると認識されている。
- ・また、施設サービス計画に介護職が関わっている割合は総じて高く、アセスメント、施設サービス計画作成、評価のいずれの場面においても、介護職の観察・実施・記録にもとづく意見や助言、提案などが施設サービス計画の充実につながっている実態が明らかになった。
- ・一方で、介護過程の実践や施設サービス計画への関わりにおいて、介護福祉士であることを根拠として仕事内容を位置づけているところは少なく、介護過程実践は介護福祉士を含む介護職員全体で取り組んでいることが実態である。
- ・障害者支援施設では、個別支援計画の作成が義務づけられているため、作成に関しては基本的に行われている。しかし、それ以外の特徴は、概ね介護保険施設の結果と同傾向である。

②介護過程の実践事例調査（質的調査）

介護過程実践に取り組む10施設の事例調査の結果、介護過程実践に関する特徴には以下のよう
なことが見えた。

- ・介護過程実践に取り組むことの意義を含めて、介護過程実践を通じて達成すべき組織の理念が共有され浸透させる仕組みが比較的整えられている。
- ・共有されている理念を実践するための人材育成の仕組みや環境、キャリアに位置づける人事制度などが整えられている。
- ・介護過程実践は介護職個人が取り組むものではなく、組織やチームとして展開するものとして位置づけられている。
- ・介護過程を実践するためのチームが機能するための会議体、記録や情報共有、個別介護計画書の内容検討や確認等の仕組み、日常業務の中で介護過程実践が展開される仕組み、他職種との連携が生まれる仕組み等の工夫がされている。
- ・介護職員の力量の違いをカバーし、日頃の介護過程実践が円滑に進められるように工夫された書式等が導入されている。
- ・介護過程実践における介護福祉士の役割は重要であると認識しつつ、一定のポストについて介護福祉士を要件としている施設もあるが、具体的に介護福祉士であることを根拠とした介護過程実践における業務分掌まで行われているとは言えない。
- ・介護過程実践、特に個別介護計画という介護の方向性を定める支柱を作成するプロセスによって、利用者本意の個別ケアの実践ができること、専門職としての自覚が芽生えること、後進の育成や、チームビルディングに効果があり、一部では業務の効率化や離職率の低下という効果もあげられている。

③効果検証

②において自身の施設における実践事例を発表し、かつ他施設の発表に同席する形で参加したA事例施設、②で見出された書式や仕組み等を導入して、介護過程実践に寄与する効果を検証したB新規協力施設、それぞれの報告から見出された特徴は以下の通りである。

<A 事例施設>

- ・自分たちの介護過程実践を振り返り、介護過程そのものや、介護過程実践における課題や改善についての再認識や発見があった。
- ・介護過程における「アセスメント」「計画立案」の先にある介護の「実施」「評価」との連動についての重要性、課題に気づき、そのための仕組みづくり等に関心が高まった。
- ・介護過程実践の質をより向上させるために、これまで以上に人材育成の仕組みや理念教育、書式や取り組み効果を高める運用の仕組みを発展させていくことへの気づきがあった。
- ・自施設の発表のために行った実態や課題の整理、他施設の取り組みを知ることで、新たな改善に向かう取り組みの動機づけになった。

- ・介護福祉士は介護過程の基礎的学びを経ていることが基本となっており、介護過程実践においては、その取り組みの意義についてチームをエンパワメントしていく機能が期待されている。
- ・障害者支援施設においては、個別支援計画の作成が義務づけられているため、介護保険施設と比べてその効果や恩恵に預かる実感がある。反面、形骸化している点や、高齢障害者の増加や、複雑多様化する介護ニーズに対して、介護過程実践の取り組みの重要性を実感する機会となった。

<B 新規協力施設>

- ・新たな書式等を取り込み、意識して実践することにより新たな気づきや視点を得ることができた。
- ・利用者個人に着目する機会となったことで、観察や多角的な情報収集など、個別ケア実践に意識や視点を向ける効果があった。
- ・利用者を個別的に見る視点によって、利用者との信頼関係の形成に寄与することになった。
- ・利用者の強みや長所に着目できるようになり、問題解決思考から、目標思考へと変化するケースがあった。
- ・人材育成としての機能とチームアプローチを促す機能が感じられた。

(2) 介護現場における介護過程実践に関する課題について

①介護過程実践の実態調査（量的調査）

アンケート調査結果から見えてきた、介護現場における介護過程に関する課題は以下の通りである。

- ・介護過程実践を行える人材について、「研修・学習の機会の充実」「職員の意識改革」「職員の能力・意識の差」「個別介護計画の必要性の理解」といった教育や育成が課題とされている。
- ・「日々の業務が忙しく、時間が取れない」「ICTや書式等を活用できる環境づくり」「職場環境の改善」といった介護過程実践に取り組むための前段、現場の負荷を取り除くことという課題があげられている。
- ・介護支援専門員やサービス管理責任者と現場の介護職員との連携不足、他職種との連携の課題が介護過程のプロセスの取り組みに影響を与えている。
- ・書式や仕組み等が改善・更新されていない、書式や会議体があっても実務に落とし込まれていないといった、運用における課題があげられた。
- ・組織における各層が担うべき役割が不明確になっていたり、法人の理念や考えを浸透させていくことの課題が明らかになった。

②介護過程の実践事例調査（質的調査）

介護過程実践に取り組む10施設からの報告を踏まえると、介護過程実践の課題は以下があげられる。

- ・目の前で起きていることの事象や思考、根拠について言語化する能力の醸成があげられている。特に、一朝一夕で身につくものではないため、反復する訓練機会などを仕組み化していかなければならない。
- ・言語化能力を養成する他、介護過程実践を継続的に前進させるための「人材育成」はどの施設からもあげられている。体系化されたOFF-JTとOJTのどちらもその必要性が認識されている。
- ・自分たちの介護過程実践における、客観的評価がないという課題。介護職個々の能力や主観が影響していることはもちろん、組織の中で指導者等がいたとしても、その者たちを評価する仕組みがないことは、介護過程実践そのものの評価がないということと同意であり、課題と認識されている。
- ・介護過程実践に取り組んではいるが、更なる発展や質の維持向上を図るためには、業務効率化や負担軽減のために、ICT導入が必要である課題が明らかになった。

③効果検証

<A 事例施設>

A事例施設は、どこも課題の認識について行動を起こしていることが多い。どのような行動かを通じて、そこにある課題をあげる。

- ・サービス等利用計画と個別支援計画の連動性を高めるために両者をつなぐための中間的書式を導入する。ケアプランと介護職がつくる計画書とに隔たりがあることが課題として浮かび上がっている。
- ・既存の介護チームをより小さな単位のチームに縮小。チームの構成や役割、責任の所在を明確化することで一人ひとりの主体的な介護への関わりを促すねらい。
- ・既存の委員会の中にプロジェクトチームを結成。日々の業務の中に記録時間を義務的に確保していくというミッションを背負っている。業務改善によって、介護過程に取り組むオペレーションを組もうとしている。
- ・計画やケアの振り返りの期間を中期間からより短期間で行う機会を設ける。計画立案から介護の実施と評価の連動性をより高めて、個別介護計画の位置づけと利用者への寄与を確認する機会を増やすねらいがある。
- ・既存の教育システムの中に、さらに新たなポストを設置してスーパービジョンの仕組みを検討。動画教材を作成し、育成に力を入れることで職員間の力量差を是正させていくねらい。

<B 新規協力施設>

B新規協力施設は、限られた期間・方法での検証であったことから、効果検証には課題が残された。具体的には、書式や仕組み等の効果について実感は得られたが、客観的な効果として立証

できるには至っていない。特定の利用者だけでなく、全利用者に実施していくとしたら「現在の体制では非常に厳しい」という声も多かった。また、介護過程における一場面での取り組みであったため、それが介護過程全体に及ぼす効果までは検証できていない。

これらの点から、本調査研究で得られた知見を改めて効果検証する機会が重要であり、残された課題と言える。

(3) 調査研究の総括

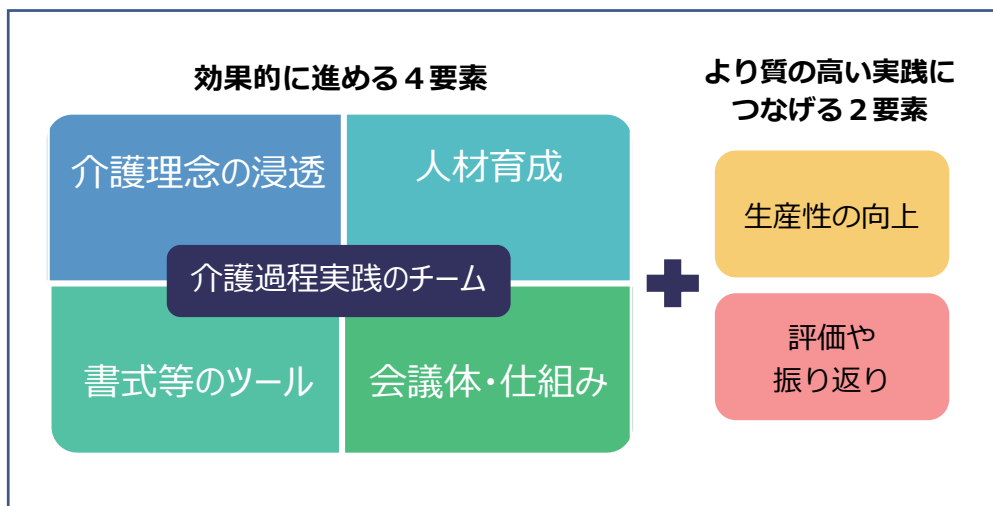
以上、介護現場における介護過程実践に関する実態と課題、介護福祉士の位置づけやチームケアとの関連について、3つの取り組みから得られた特徴を抜粋してまとめた。

介護保険施設においては30%強の施設で個別介護計画が作成されていることがわかった。また、個別介護計画書を作成する効果については、利用者の尊厳や生活に対する効果、介護人材の育成やキャリアに対する効果、介護チームを形成する効果などが見出される。しかし、具体的根拠として提示できる効果として本調査研究の結果では十分とは言えない。この点は今後の調査研究が必要であり今後の課題と言える。

障害者支援施設においては、個別支援計画の作成が義務づけられてはいるが、複雑多様化する介護ニーズへの対応、人材不足などもあり、介護過程実践の発展と質の向上に寄与する工夫が求められる。

実践事例調査や効果検証からは、介護過程の実践が介護職個人による専門的な技能であるという認識を踏まえつつも、現場における介護職チームを実働させるチームケアの重要な技法であり仕組みであるという構図が見えてきた。その介護過程実践を、介護現場においてより効果的に進めるために必要と考えられる要素は「介護理念の浸透」「人材育成」「会議体・仕組み」「書式等のツール」の4要素であることが見出せる。

介護現場において介護過程実践を推進する要素



「介護理念の浸透」は介護過程実践は目的ではなく、利用者が望む生活を実現するための介護職チームの実践的専門性を発揮する手段である、という理念を職場で共有するために大事な要素である。そして、その理念が共有された上で具体的に職員が介護過程を実践できるよう育成されていることが重要であり、そのための教育制度や人事制度が求められる。加えて、実践の場においては、育てられた人材が組織の中で機能するための会議体や仕組みが整い、さらに連携等を円滑にして、力量差を是正していくための書式等のツールがあり、これらが有機的に機能している時、介護過程実践のチームが機能するという構図である。

また、4つの要素のほかに、介護職員の負荷を軽減し、効率的に介護過程実践に取り組めるように、ICTの活用によって代表される生産性の向上が求められる。さらに、自分たちの介護過程実践が閉鎖的にならず、客観的評価や外部の視点が入る機会によって、実践を振り返る機会（リフレクション）があることも重要であることが効果検証からは明らかになった。これら2つの支援要素があることで、より質の高い介護過程実践にブラッシュアップしていけることが見出された。

本調査研究から見えてきた課題は、上記の裏返しとも言える。それぞれの要素が十分に機能していないと介護過程実践に取り組むチームが機能しなくなる。特に大きな背景としては、慢性的な人材不足により、教育や新たなプロジェクトに取り組むということに注力できない現場の喫緊の課題がある。介護過程実践や個別介護計画の作成が、業務効率化や介護職の離職率の低下、人材育成に寄与しているという結果が本調査研究の結果で垣間見えた。しかし、疲弊している介護現場に介護過程実践や個別介護計画の作成に踏み出すまでの十分な根拠が得られたとは言えない。チームビルディングや対利用者にとっての効果があることも含めて、介護過程実践の効果検証については、更なる調査研究が求められるものとして、残された課題と言える。

また、実践事例調査からは、介護過程実践における介護職（介護福祉士）の役割として次ページに示す6つを整理・明示することができた。このうち、①～④は資格の有無にかかわらず、介護職全体に通底する役割と捉えられるが、⑤⑥については介護福祉士が専門職としての知識や技術をもとに遂行している事例もみられ、介護福祉士が果たしている（介護福祉士に期待されている）リーダー的役割と言えるであろう。

一方で、上記のような結果は得られたものの、本調査研究の目的の一つでもある、介護過程実践における介護福祉士だけが担う役割については、その役割の具現化や切り出しが難しかった。介護過程実践はもちろん、現在の介護現場では、介護福祉士とその他の介護職の明確な役割分掌が行われておらず、資格による差が明確になっていないことがその要因の一つである。加えて、介護現場においては、介護過程実践が個人的な技能ではなく、介護職チームにおける実践の技法・仕組みとして機能しているということが本調査研究で得られた知見である。この点も踏まえて、今後は、介護職チームにおける介護福祉士の役割、介護過程実践という文脈で介護福祉士の役割を捉えて調査をしていくことが重要だろう。

介護現場における介護過程実践は、介護現場の疲弊に加え、介護過程実践を効果的に進める4要素や2つの支援要素が足りていないと十分に取組めないことがわかった。これらの要素をいかに構築、導入、支援していけるかの検証、介護過程実践に取り組むためのより深い効果検証、

そして介護過程実践チームの中における介護福祉士特有の役割を見出していくことが、本調査研究の残された課題と言える。

介護過程実践における介護職（介護福祉士）の役割

①生活を支援軸に利用者を支える

- 「生活」を支援軸とした「生きている・生活している全体像」として利用者を捉え、介護過程実践を通して利用者を支える役割（介護職及び介護福祉士）

②介護実践を言語化する

- 利用者への説明や、多職種及び介護職における情報の共有に向けて、「今、何が起きているか」を根拠に基づき説明できるよう、介護実践を言語化する役割（介護職及び介護福祉士）

③利用者の声の代弁・意思決定・自己実現を支援する

- 利用者の意思を確認し、利用者の声を代弁しながら、意思決定を支援し、自己実現を促す役割（介護職及び介護福祉士）

④多職種連携を推進する

- 情報集積と交換の場としてのハブ機能、利用者に最も近くにおいてアセスメントをする機能、多職種間の情報を統合整理する機能、支援のばらつきがある時に本来あるべき形に戻すバランス機能を持ち、これらをもとに多職種連携を推進する役割（介護職及び介護福祉士）

⑤介護過程実践の基盤となる組織運営を推進する

- 組織として介護過程実践を推進できるよう組織改善を行う役割（介護福祉士）

⑥人材育成・能力開発を担う

- 介護職の能力開発、専門性の発揮、後進育成などの人材育成を担う役割（介護福祉士）

